

BXグループ
CSR報告書
2018



「新しい」に、踏みだす。

シャッターやドアから新しい一日が始まるように

BXグループは常に「新しい」価値創造に挑戦しています

培ってきた技術を活かし

あらゆる人々の暮らしにより多くの「快適」を届けるため

私たちBXグループは今日も「新しい」一歩を踏みだします

目次

| | |
|--|----|
| トップコミットメント | 3 |
| トップインタビュー | 5 |
| 財務・非財務ハイライト | 7 |
| BXグループのCSR | |
| BXグループの企業活動を支える基盤的CSR | 9 |
| BXグループの価値創造ストーリー | 11 |
| 事業と価値創造の広がり | 13 |
| 価値創造の軌跡 | |
| 社会に価値を創出し、新たな市場を開拓 ～引戸が提案する新しい“住まい方”～ | 15 |
| ステークホルダーダイアログ | |
| 社会貢献を見据えた製品づくり 玄関引戸と土間～新しい生活空間とライフスタイルを提案～ | 17 |
| 成長と共に | 21 |
| お客様の満足を追求 グループの成長・発展 誠実な企業経営 | |
| 社会と共に | 27 |
| 企業市民としての社会貢献 人道的社会貢献 文化活動の支援 BXグループのエリア活動 | |
| 地球と共に | 33 |
| 環境負荷を軽減した企業経営 環境配慮技術・商品開発 自主的な環境保全活動 BXグループ環境負荷の全体像 | |
| 働く仲間と共に | 37 |
| 人権の尊重 雇用の創出 満足度の向上 | |
| 第三者意見／第三者意見をいただいて | 41 |
| CSR用語集 | 42 |



BXは、当社グループが常に未知への挑戦を続け、進化していく姿を示すシンボルです。

Bは文化シャッター全グループを、Xは未知数・無制限・掛け合わせる力を意味する「進化」を表しています。「BXグループ」は今日まで培ってきた技術・製品を基盤とし、さらに創造力や技術力、人間力を掛け合わせ未来に向かって進化し続けます。また、スカイプルーは、当社グループがめざす「快適環境のソリューショングループ」として、地球環境の美しさを象徴する青空の広がりをイメージしたものです。

編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆様へBXグループのCSRについてご理解いただくために作成しています。

経年の編集方針

- BXグループのCSR憲章をもとにした章立てで構成します。
- BXグループのCSRの取り組みについて、ステークホルダーの皆様によりわかりやすくご報告することに努めます。
- BXグループの取り組みが、社会そしてステークホルダーの皆様にご覧されているかを受け止めるため、できるだけ皆様からのご意見をいただくように努めます。
- 取り組み内容をわかりやすくするために、個々の取り組みについて、担当者からの声を掲載します。
- 従業員数にはパートタイマー・嘱託社員等は含まれません。

2018年度版の編集ポイント

- (1) BXグループの持続可能性を根拠とした事業ポートフォリオと、将来的な変化を見据えた価値創造の広がりについて、企業活動を支える「基盤的CSR」と「戦略的CSR」としてわかりやすく図示しました。
- (2) BXグループCSR4憲章（成長と共に・社会と共に・地球と共に・働く仲間と共に）とESG（環境・社会・ガバナンス）との照合を図り、マテリアリティを特定、目標に基づいた取り組みについて4憲章ごとに報告・評価しています。
- (3) BXグループがあるべき姿として掲げる「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現をめざした社会課題解決のための製品・ソリューション展開の一例として、「引戸が提案する新しい“住まい方”」を特集で取り上げ、未来の住まい方について、ステークホルダーの皆様と意見を交わしました。

情報提供について：WEBマークの項目は、詳細・関連情報をホームページでご覧いただけます。

報告対象期間：2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）を報告対象期間としています（ただし、一部2018年度の報告も含んでいます）。組織・役職は2018年4月現在のものです。

報告対象組織：BXグループ全体を対象としています。文化シャッターのみ、あるいは特定の会社に限られる場合は、本文中にその旨を明記しています。

次回発行予定：2019年8月予定

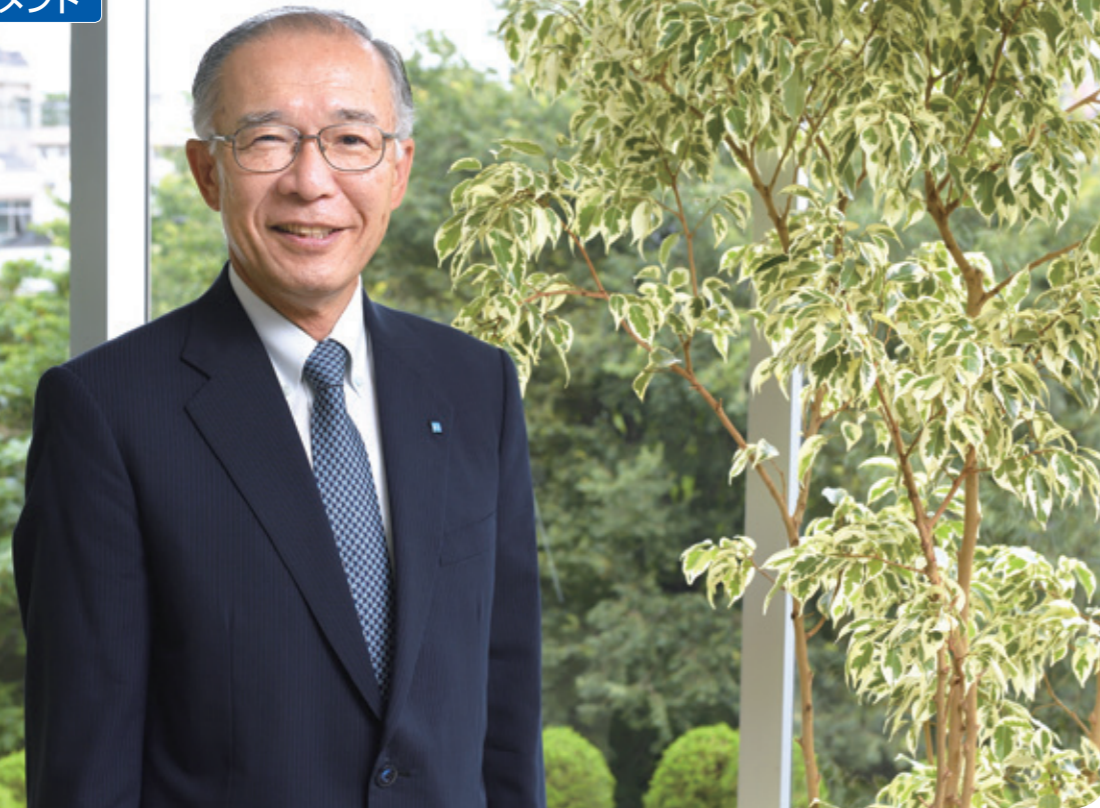
WEB CSR情報ページをリニューアルしました



BXグループの取り組みについて、より詳しい情報をホームページ上で公開しています。

<http://www.bunka-s.co.jp/csr/>





長期的なビジョンで 快適環境の社会づくりに貢献します

BXグループは、長期ビジョンである「快適環境ソリューショングループ」をさらに進化させることで、人々が快適で安心に暮らせる持続可能な社会・環境づくりにグループ一丸となって貢献したいと考えています。BXグループの今後にご期待ください。

不変のDNAである 引き継がれるべき 企業文化

BXグループの長期ビジョンである「快適環境ソリューショングループ」。当社グループがめざすこのあるべき姿に向かって、日々進化し続けることが、企業の成長と持続的な社会の発展につながると思っています。

創業当初に掲げられた社是「誠実・努力・奉仕」は、お客様の生活スタイルや時代のニーズに真摯に向き合い、常に新しい価値提供に挑戦し続けることで、お客様の幸せと社会の持続的な発展をめざす企業姿勢として、今も引き継がれる不変のDNAです。そしてそこに込められた「革新と挑戦」の精神は、従業員一人ひとりが立ち返る原点として今後も継承すべき大切な財産となっています。

2016年より5カ年を見据えた中期経営計画では、社会の誰もが快適な環境で生活するためのソリューションを、製品・サービスを含めた価値として提案し、課題解決に取り組む「社会への貢献」を通じて、「グループの成長・発展」を遂げる姿を「ポスト2020VISION」として位置づけました。この「ポスト2020VISION」は、原点となる社是・経営理念体系を今の時代に読み替えて共有するためのビジョンです。

BXグループは創業63年目を迎えましたが、社是・経営理念に込められた創業者の精神と、この長期的な視点をグループの全従業員で共有してきたからこそ、変化する社会情勢や大規模な自然災害による影響など、さまざまな外的要因をも乗り越えて成長することができたのだと思います。

長期的な 企業価値の向上を めざす

2015年に国連で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」は、2030年までに達成すべき17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されており、「誰一人取り残さない社会の実現」をめざし、全世界で取り組みが始まっています。

BXグループのCSR活動は2007年にスタートし、社是・経営理念に基づいた独自のガイドライン「CSR憲章」を定め、憲章ごとにCSR活動を分類し、取り組んできました。それぞれに設定された行動指針は、BXグループが取り組むべき重点課題を整備するためのインデックスであり、持続可能な社会の実現に向け、地道に歩みを進めてきました。私たち企業も、CSRのこれまでの取り組みを活かしながら、SDGsを意識したより広い視野で取り組みを強化していく必要があります。

また昨今、長期的な投資の重要性が説かれ、環境を含めた社会的側面に配慮する企業に対して投資をするESG投資が急速に拡大しています。これは、長期的な視点において、社会的側面を考えない企業は、この先淘汰されてしまうということです。

環境（E）社会（S）ガバナンス（G）の考え方は、4つの憲章「成長と共に」「社会と共に」「地球と共に」「働く仲間と共に」からなる「CSR憲章」にぴったりと当てはまります。CSR憲章ごとに具体的重点項目と目標を定めることが、今、何がESGの課題として重要なかを見定めることにつながり、当社グループが社会において果たすべき役割が明確になります。ESGとCSR憲章を対照させながら取り組みを整備し、着実に実施していくことが、長期的な企業の価値向上につながるものと考えています。

CSR経営と グループの成長

急速に変化していく社会情勢を“よく見て”、タイムリーな“ことづくり”を実現する総合コンサルティング力で、社会課題に積極的に向き合うことが当社グループのCSR経営の根幹となっています。

2010年からは積極的に事業領域を拡大することで、社会課題解決のためのイノベーションを起こす基盤づくりに注力しました。2018年には新たにBXルーテス、BX BUNKA AUSTRALIAをグループに迎え、グループ全25社となり、さらなる課題解決分野の拡充を図ります。時代を“よく見て”、今後起こりうる社会課題をどう捉えるか、その捉え方が事業領域を拡げ、新たな価値創造ストーリーを紡ぎ出すBXグループの革新の鍵となることでしょう。時代に応じて事業ポートフォリオを整備し、BXグループの総合力を高めることでグループの将来像がより明確に描かれるのだと考えています。

もちろんBXグループの将来像を形づくるのに、源泉となる従業員一人ひとりの力は欠かせません。ビジョンを共有した従業員と共に、時代に応じたタイムリーな“ことづくり”を実現する総合コンサルティング集団として、BXグループは成長し続けます。

ステークホルダーの 皆様へ

私は社長に就任以来、ステークホルダーの皆様と従業員の幸せを実現することが自分に課せられたミッションだと言い続けてきました。

そのためには、社会の期待に応えることはもとより、新しい価値ある提案を社会に発信し続け、より多くの皆様から信頼される企業となる必要があります。

当社グループは創業以来、その時代に応じた新たな価値の提供に挑戦し続けてきた歴史があり、“技術の文化”と市場から評価をいただいているように、その歴史にはさまざまな価値創造のストーリーがありました。このストーリーをより広く社会に発信し、共有することで、BXブランドをより多くの方に認知していただき、その信頼感を今後の事業展開の糧としていきたいと考えています。

お客様、お取引先様をはじめ、投資家の皆様、地域社会、協力会社の皆様には、本報告書をご一読いただき、またグループ全従業員においても同様に忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。そして今後のBXグループの成長と発展にぜひご期待ください。

BXグループ独自の戦略で、 持続可能な社会の実現のために、 新たな価値の創造に挑戦し続けます

BXグループのCSRと事業活動

当社グループは、創業者から受け継ぐ「誠実・努力・奉仕」の精神と経営理念に基づき、グループ全体で社会課題解決に向けた事業活動を進めてきました。この企業姿勢は、CSRの考え方の土台ともなっており、持続可能な社会の実現と、BXグループの持続的成長を可能とする価値の創造に戦略的に取り組んでいます。

当社グループのソリューションは、「マーケット・イン」をさらに進化させ、変化する社会情勢やライフスタイルに適合させる「ライフ・イン」の発想と、当社グループと永く「安心」「安全」

にお付き合いいただく、お客様との持続的な関係構築をめざす「ライフロング・パートナーシップ」、2つのコンセプトに支えられています。首尾一貫したコンセプトから創出された「ユニバーサルデザイン」「防犯」「エコ」「防災」「ロングライフ」の分野において課題解決に取り組み、新たな価値として製品・サービスの拡充に注力してきました。今後は時代を“よく見て”、顕在化する社会課題はもとより、将来を見据え、この先起こりうる社会課題の領域にまで、いかに価値創造分野を拡げられるかが、グループの成長の鍵を握ると考えています。

成長戦略の構築

当社グループは、企業価値を増大させ、価値創造分野を拡大させるためのイノベーションを起こす基盤づくりとして、積極的に事業領域の拡大に取り組んできました。

当社グループの代表的なCSV（社会と共有できる価値の創造）の事例に止水事業があります。ゲリラ豪雨に代表される異常気象が常態化する中、主に大規模施設のBCP対策として提案してきた止水事業を、さらに深掘りし、多様な設置場所に応じて、一人でも簡単に設置でき、繰り返し使用できる“簡易型”というコンセプトのもと新たに提案したのが簡易型止水シート「止めピタ」や店舗用止水板「ラクセット」です。その性能の高さと設置の手軽さから、多くのメディアにも採り上げられ、関心を集めました。

特に東日本大震災以降は、当社グループの製品も少なからず影響を受けた経験から、災害対策ソリューションの開発に主眼を置いています。建築構造計算のBX TOSHO、建築物への耐震補強を専門とする木造建築金物のBXカネシンをグループ会社に迎えたほか、ライフイン環境防災研究所には、新たに耐震試験装置を導入しました。非構造部材への耐震性能に関しては、まだ深い議論がなされていない中、開口部を中心とした非構造部材に耐震性・対震性という高付加価値を兼ね備えたソリューション開発に取り組んでいます。

このようなCSVモデルを時代に先駆けて提案する。これが競争優位を確保するためのBXグループの強みだと考えています。

グループ会社

シャッター関連

- BX 新生精機株式会社
- BX 沖縄文化シャッター株式会社

建材関連

- BX テンパル株式会社
- BX ケンセイ株式会社
- BX 文化パネル株式会社
- BX 鐵矢株式会社
- BX 東北鐵矢株式会社
- BX ティアール株式会社
- BX 朝日建材株式会社
- BX ルーテス株式会社
- BX 紅雲株式会社
- BX 西山鉄網株式会社
- BX 文化工業株式会社
- BX カネシン株式会社

サービス

- 文化シャッターサービス株式会社

リフォーム

- BX ゆとりフォーム株式会社

海外

- BX BUNKA VIETNAM Co.,Ltd.
- BX BUNKA AUSTRALIA PTY LTD
 - Steel-Line Garage Doors Australia
 - Steel-Line Installations Australia
 - Steel-Line Garage Doors (WA)
 - Dynamic Door Service

その他

- BX あいわ株式会社
- BX TOSHO 株式会社

関連会社

- 文化シャッター秋田販売株式会社
- 文化シャッター高岡販売株式会社
- 株式会社エコウッド
- 不二サッシ株式会社
- Eurowindow JSC

中期経営計画

東京オリンピック・パラリンピック前後には市場が大きく変化すると予想されますが、どんな環境下においても揺らぐことなく、柔軟で強固な事業体として成長することが中期経営計画の骨子となっています。

中期経営計画では、今後の市場環境の変化を見据え、まずは事業ポートフォリオの最適化を図り、当社グループの事業を基幹事業と注力事業に整備しました。

創業当初より、当社グループの成長と発展を支えてきたシャッター・ドア事業、建材関連事業を基幹事業と位置づけ、強固な基盤としてさらなる拡充を図ります。

そして事業テーマであるエコ・防災事業、「安心」「安全」な

社会づくりのためにお客様との持続的な関係を構築するロングライフ事業、防災設備等の点検を中心としたメンテナンス事業、時代の要請や社会構造の変化に対応した建材を提案する特殊建材事業、事業エリアの拡大を図る海外事業を、当社グループのさらなる発展を担う注力事業として位置づけ、2020年までにセグメントの売上比率3割まで成長させます。

中期経営計画スタート前と比較すると、対2016年3月期比で、ロングライフ事業104.1%、海外事業114.7%、特殊建材事業245.0%、メンテナンス事業119.5%となり、注力事業全体では114.0%と大きな成果が見られました。

社会と共に持続的に成長する企業をめざして

「ポスト2020VISION」で実現させるあるべき姿「進化する快適環境ソリューショングループ」を今一度グループ全従業員がイメージすることが大切です。BXブランドに誇りを持ち、「BXらしさ」でグループの成長・発展と時代に応じた社会課題の解決を両立させることが、このビジョンのゴールです。

潜在化した社会課題に対して時代の一步先をいく「ライフ・イン」から発想したソリューションでアプローチしていく

挑戦を続けることで、技術により一層の磨きがかかり、「BXらしさ」が確立することでしょう。

ものづくりから新たな価値を生む“ことづくり”へ。

ステークホルダーの皆様との積極的なコミュニケーションで、「社会にとっての価値」を共有し、「BXらしさ」で成長していく当社グループの姿を、皆様にご覧いただけるよう今後も将来に向けての挑戦を続けていきます。



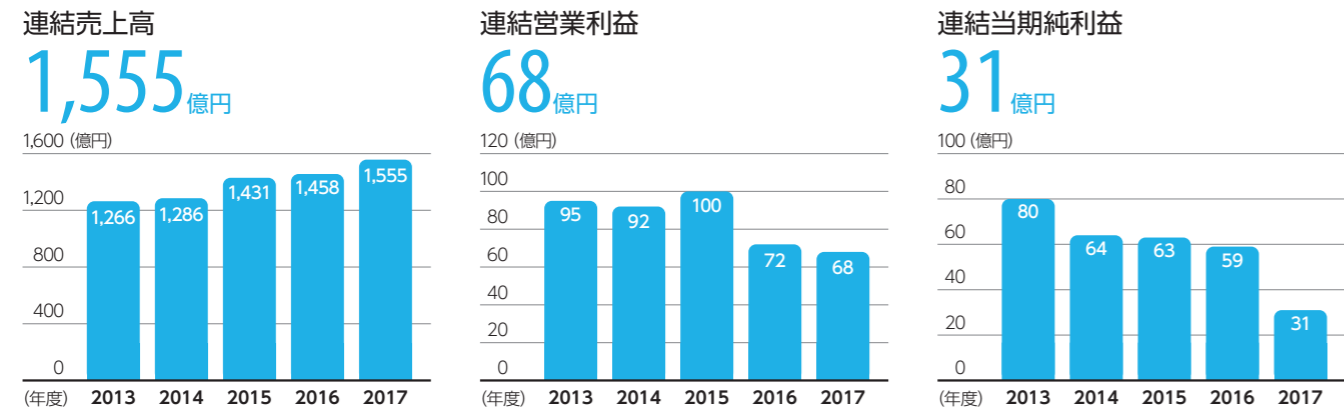
文化シャッター株式会社
代表取締役社長

潮崎敏彦

コーポレートデータ

社名 文化シャッター株式会社
 事業内容 各種シャッター、住宅建材、ビル用建材の製造および販売
 本社 〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号
 資本金 15,051百万円 (2018年3月現在)
 TEL : 03-5844-7200 (代表) FAX : 03-5844-7201
 従業員数 4,478名 (連結2018年3月現在)
 設立 1955年(昭和30年)4月18日
 営業拠点 全国223ヶ所 (連結334ヶ所)

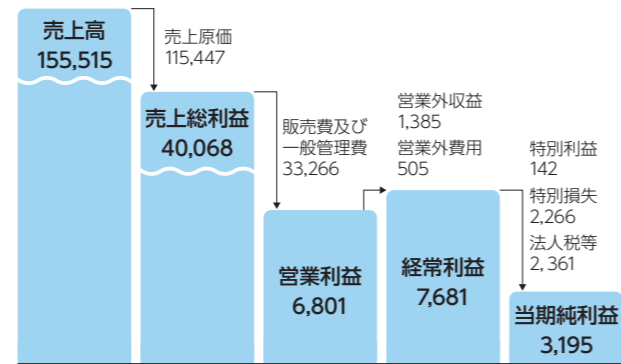
財務ハイライト



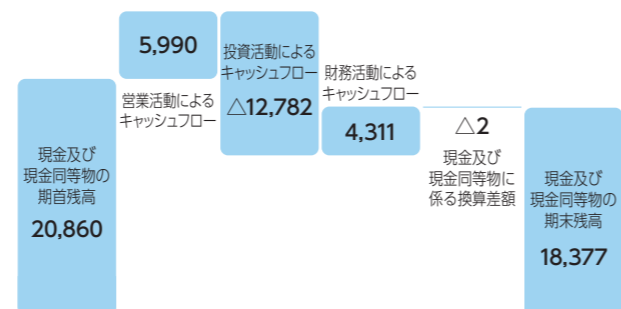
連結貸借対照表(B/S) 単位(百万円)

| 資産の部 合計 152,973 | | 負債・純資産の部 合計 152,973 | |
|---------------------|---------------------|--------------------------|----------------|
| 現金及び預金 20,017 | 流動資産 86,311 | 支払手形及び買掛金 32,143 | 流動負債 58,582 |
| 受取手形及び売掛金 45,684 | | 短期借入金 11,700 | |
| 商品及び製品 11,717 | | リース債務 481 | |
| 仕掛品 943 | | 未払費用 5,537 | 固定負債 24,195 |
| 原材料及び貯蔵品 3,877 | | 賞与引当金 3,116 | |
| 繰延税金資産 1,112 | | その他 5,602 | |
| その他 3,073 | | 長期借入金 3,350 | |
| 貸倒引当金 △114 | 退職給付に係る負債 18,351 | 純資産 70,195 | |
| 有形固定資産 30,203 | その他 2,494 | | |
| 無形固定資産 10,089 | 株主資本 64,439 | その他の 包括利益累計額 5,756 | |
| 投資その他の資産 26,369 | | | |

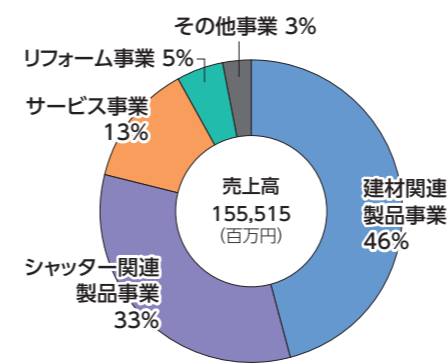
連結損益計算書(P/L) 単位(百万円)



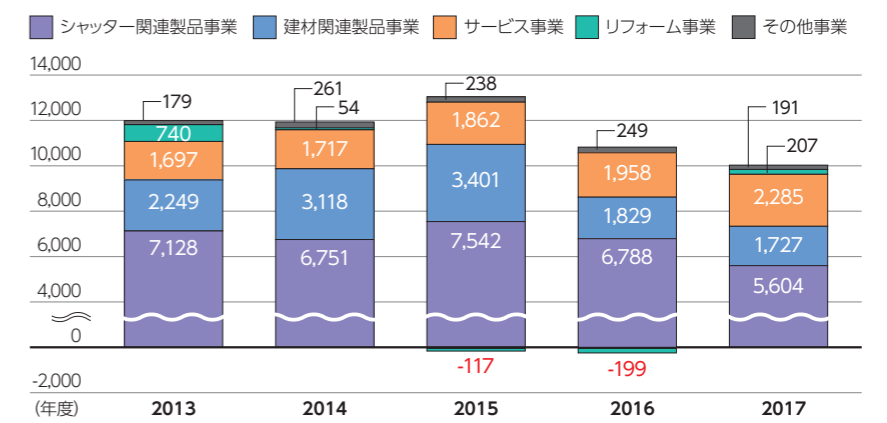
連結キャッシュフロー(C/F) 単位(百万円)



事業別売上高の構成比

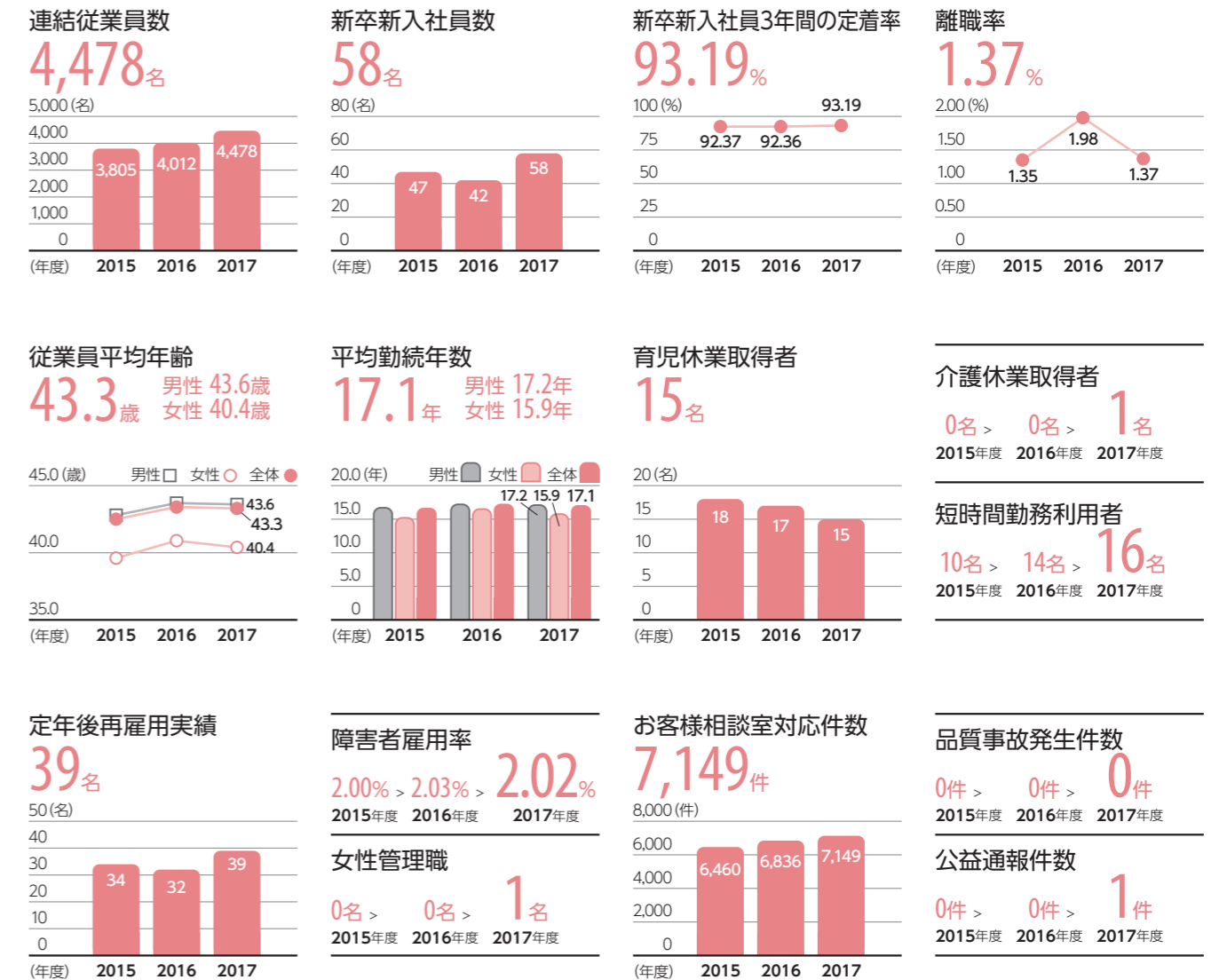


事業別営業利益の推移 単位(百万円)



非財務ハイライト

※ 従業員数以外は文化シャッター「単体」で算出



BXグループの企業活動を支える基盤的CSR

活動の拠り所

「お客様の幸せ」のために、常によりよい商品を提供することで社会のお役に立つ」という、奉仕の精神こそが私たちBXグループのCSRの礎となっています。

創業当初から貫いてきたお客様目線のものづくりの精神と技術力で、お客様の暮らしに「安心」「安全」を提供する使命と役割を果たしてきたことが、今のBXグループの基盤をつくり、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様から信頼を得ることにつながっています。

社 是

「誠実」

心のふれあいである。真心のふれあい信頼は生まれる。

「努力」

創造する行為の持続力である。

「奉仕」

自発的な行為、行動でお客様や社会のお役に立つこと。
お客様の立場に立った思いやりの心であり、
いたわりの精神である。

経営理念

私たちは、常にお客様の立場に立って行動します

私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します

私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

CSR憲章とCSR行動指針

BXグループでは、2007年に社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」を掲げ、それを実践するための「CSR行動指針」を定めCSR活動をスタートしました。以来「CSR憲章」の4テーマごとに重要なCSR課題について年度目標を定め、定期的に進捗を確認し、PDCAサイクルを運用することで着実に活動を展開してきました。

近年、企業の長期的な成長のためには、ESG（環境・社会・ガバナンス）が示す3つの観点が必要だという考え方が世界的に広まってきています。当社グループでは、CSR4憲章に取り組むことがこれらESG分野の課題に真摯に向き合うことであるという観点から、企業価値そのものを高めていく意味のCSR経営を推進することで、社会的な責任を果たしていきたいと考えています。

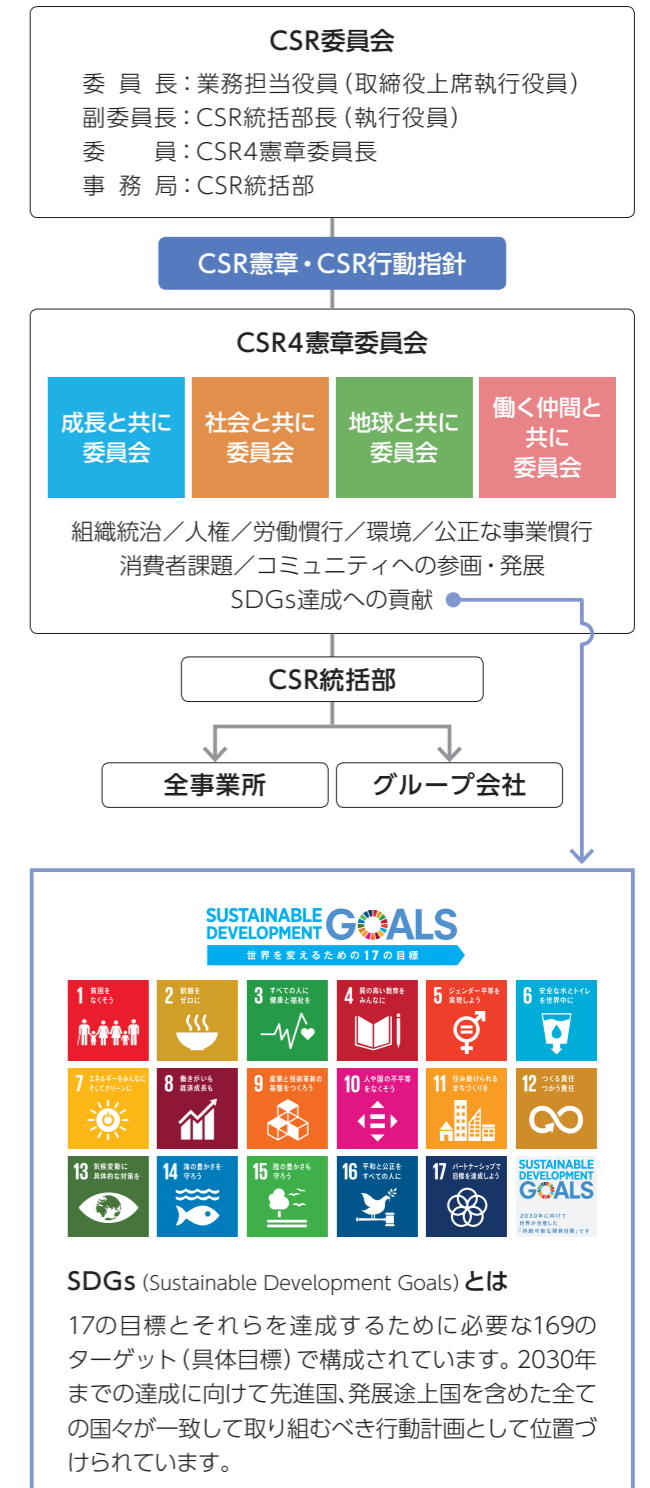
| CSR憲章 | ESG分野 | CSR行動指針 (重要なCSR課題) | 2017年度 活動報告 |
|--|--------------|--|----------------|
| 成長と共に 公正で誠実な事業活動を通じ、お客様から満足され信頼される商品・サービスを提供し、快適環境の創造を基本として、BXグループの成長を追求します。 | G (ガバナンス) | <ul style="list-style-type: none"> お客様の満足を追求 グループの成長・発展 誠実な企業経営 | P21 |
| 社会と共に 人々の心を豊かにする活動に参加、支援することにより、良き企業市民として、社会の発展に貢献します。 | S (社会) | <ul style="list-style-type: none"> 企業市民としての社会貢献 人道的社会貢献 文化活動の支援 | P27 |
| 地球と共に 全ての事業を通じ、エネルギーの省力化に努め、地球環境の保全に自主的に取り組みます。 | E (環境) | <ul style="list-style-type: none"> 環境負荷を軽減した企業経営 環境配慮技術・商品開発 自主的な環境保全活動 | P33 |
| 働く仲間と共に 働く仲間の個性と創造性を尊重し、一人ひとりの満足と成長をめざします。 | S (社会) | <ul style="list-style-type: none"> 人権の尊重 雇用の創出 満足度の向上 | P37 |

CSR推進体制

業務担当役員（取締役上席執行役員）を委員長、CSR統括部長（執行役員）を副委員長、CSR4憲章委員長を委員とする「CSR委員会」を設置し、活動方針を審議・決定しています。決定した方針に沿って、CSR4憲章委員長とCSR統括部が中心となってテーマごとに活動を推進しています。

また、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は全世界でその取り組みが広がりつつあり、日本においても日本経済団体連合会（経団連）の企業行動憲章がSDGs達成に向け改定されるなど、社会全体で取り組みが始まろうとしています。

当社グループにおいてもCSR4憲章委員長を中心とした「SDGs対応検討委員会」を発足させ、グループとしてどう取り組むべきか、検討を開始しています。



BXグループの価値創造ストーリー

中期経営計画とめざす姿

BXグループでは、2020年までの期間を次のステップへと進化する経営の転換期と捉えています。長期ビジョンとして掲げてきた「快適環境のソリューショングループ」をさらに進化させ、社会課題解決のための事業ポートフォ

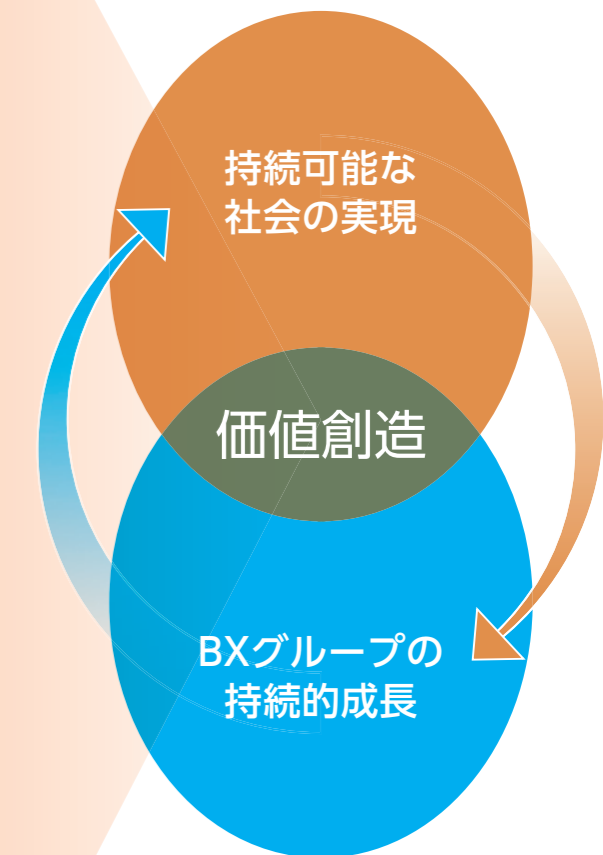
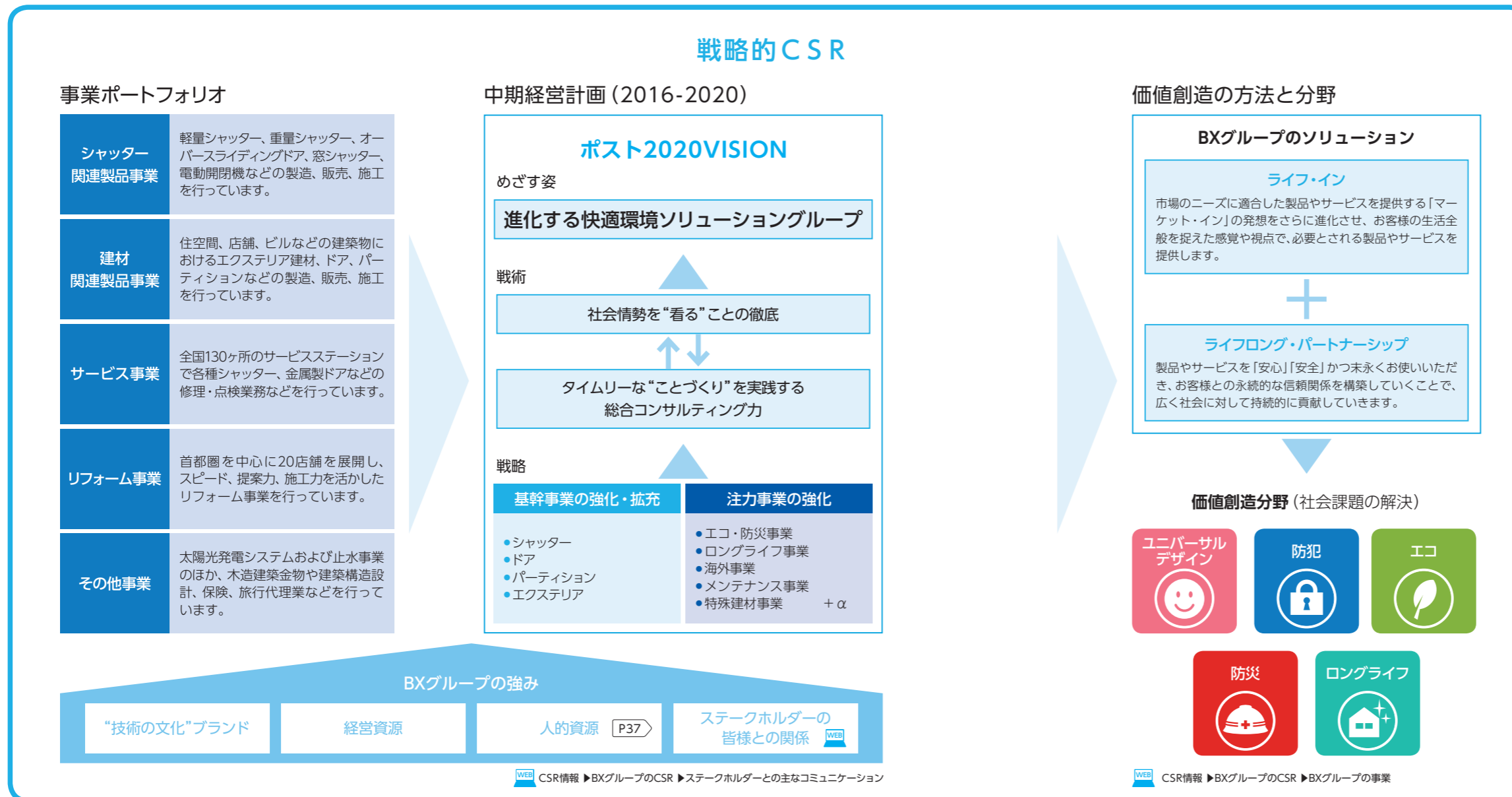
リオでグループの成長・発展を遂げる姿を「ポスト2020 VISION」とし、中・長期的な企業価値の向上をめざしています。「基幹事業を伸ばしつつ、注力事業を成長させ、次世代経営へ向けた進化をめざす」を具体的な施策とし、創

業当初から当社グループの発展を支えてきたシャッターとドアを中心とした基幹事業の強化・拡充を図り、同時にグループのさらなる発展を担う注力事業を成長させることを将来に向けた成長戦略としています。

時代が求める「価値創造」への挑戦

BXグループは創業以来、常にその時代の社会課題と向き合い、価値創造への挑戦を続けてきました。お客様のニーズや社会からの要請に対して、常に製品、技術、サービスといった新しい価値の創造に挑戦し続ける企業文化は、今後も変わらない大切な財産です。

今後も未来に継承すべきBXスピリットを守り、社会へ奉仕し続けることで当社グループが持続的に成長することをめざします。



事業と価値創造の広がり

価値創造分野 (社会課題の解決)

- ユニバーサルデザイン
- エコ
- 防災
- ロングライフ
- 防犯

製品サイト ▶ 快適空間設計工房

課題・ニーズ

- 少子高齢化対策
- リサイクルの促進 環境負荷の低減
- 再生可能エネルギー 促進
- 東日本大震災以降の 防災意識の高まり

価値創造
BXグループのソリューション

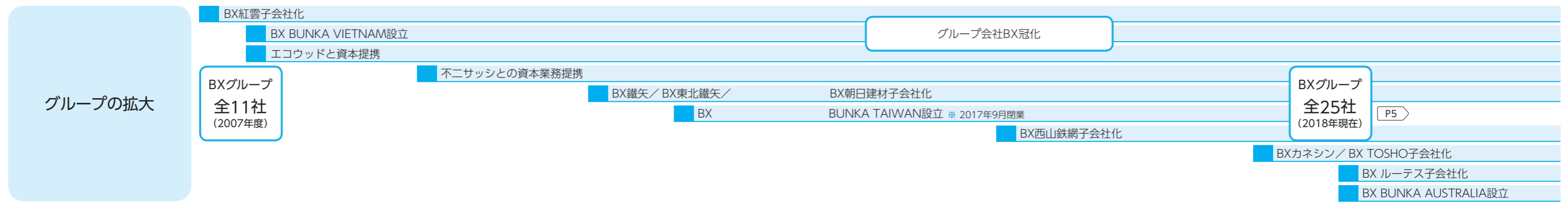
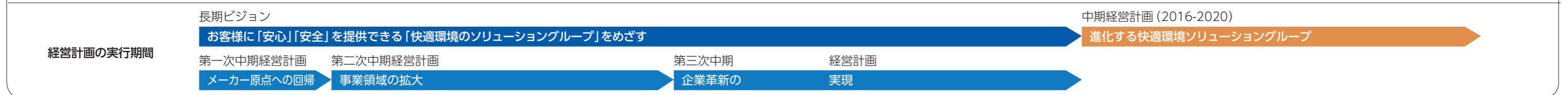
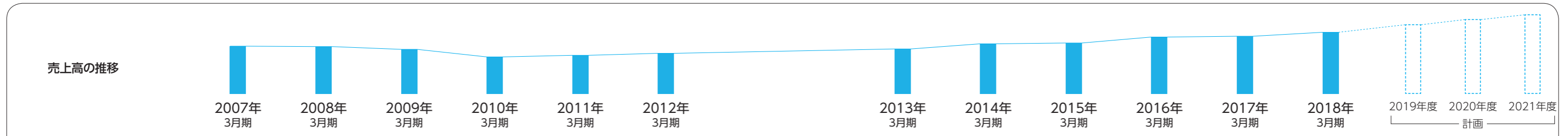
事業領域の拡大

- 2006年 軽量鋼板 自由開き折れ戸 「ヒクオス」発売
- 2007年 廃木材・廃プラ利用 100%リサイクル素材 「テクモク」発売
- 2010年 太陽光発電 システム事業に参入
- 2012年 不燃シート製 防煙たれ壁 「ケムストップ」発売

- 東日本大震災以降の エネルギー問題
- ストック市場の拡大
- 企業のBCP支援
- 快適性・安全性の 追求
- 大規模震災への対応

- エコ建材、高付加価値商品による 環境対策 ソリューション提案
- 2014年 雨戸後付電動 窓シャッターリフォーム 「ヨコタテ」発売
- 2015年 止水対策製品の拡充 アルミ製の止水板 「ラクセット」発売
- シャッター事業 電動タイプの拡販 窓シャッター 電動化の推進
- 2017年 大規模震災直後でも 防火性能を保持する 「アスコード」発売

- 木造建築金物
- 建築構造計算
- ASEAN統括事務所設置
- 止水事業に参入
- Eurowindowと資本提携



BXグループは絶えず変化する社会課題により深く関わり、事業領域にとらわれることなく課題解決に向けた取り組みを常に追求しています。前「長期経営計画」の第二次中期経営計画からは、「事業領域の拡大」をテーマに掲げ、新しい価値提供のための基盤づくりを積極的に推進してきました。今後もBXグループは、会社の資源を最大限に活かし社会課題解決に取り組むことで、「快適環境ソリューショングループ」として成長・発展し続けます。

社会に価値を創出し、新たな市場を開拓

～ 引戸が提案する新しい“住まい方”～

時代に応じた付加価値や生活スタイルに対応したバリエーションの拡充から、未来を見据えた商品提案へ。
BXグループの価値創造ストーリーは時代に先駆け、進化していきます。

カームスライダー

医療・福祉施設

軽い操作力の引戸の誕生

課題 病院の引戸が重く、車いすに乗ったままでは操作しづらい

解決 操作が軽い引戸を開発。軽さと通りやすさを兼ね備えた上吊方式



ターニングポイント

1981年 屋内 カームスライダー発売 医療、福祉施設向け

～2000年頃

軽い操作力の追求 医療、福祉施設向け

ヴァリフェイス

高齢者集合住宅

消費者目線の玄関引戸が登場

ニーズ 消費者が求めるのは病院の引戸ではなく「住らしい引戸」

解決 高齢者住宅でも引戸は医療用と同じ、という概念を覆した玄関向け引戸を開発。我が家らしさをイメージしたデザインを提案

思い出の品を飾ることで、表札代わりになるメモリーボックス



2015年

屋内 ヴァリフェイス発売 高齢者集合住宅向け

ユニバーサルデザインを追求したバリエーションの拡充

ヴァリフェイス Ai

業界初

災害対策

玄関引戸に遮音性と対震性を付加

課題 地震によってドア枠や建物がゆがみドアが開かない

解決 ドア枠と錠前に独自開発の機構を設けることで、枠がゆがんでも施錠された扉を開けることが可能に



新時代へ

ヴァリフェイス Ai 発売 高齢者集合住宅向け(対震機能付き)

設置場所や用途に合わせより細かいニーズに対応 教育施設向け(学校・体育館)

ヴァリフェイス Ae

住宅へ

住まいとライフスタイルの可能性を広げる

ニーズ 開き戸と同等の意匠性と機能性を兼ね備えた屋外用引戸がなく、集合住宅の玄関プランが限定的

解決 開き戸同様のすっきりした外観と、玄関ドアに必要な基本性能のほか、対震性も備え、かつ、引戸の使い勝手の良さから、これからの集合住宅のあり方を提案する



2017年

屋外 ヴァリフェイス Ae発売 集合住宅向け(対震機能付き)

(屋外用)公園公衆トイレ・ゴミ置き場向け



BXグループの発展を支えてきたシャッター・ドア事業。中でも自動閉鎖装置付引戸「カームスライダー」は、静かな開閉音と軽い操作性が評価され、病院や福祉施設等で長きにわたりご利用いただいています。発売当初のより軽い操作力が求められたバリアフリーの時代を経て、全ての使用者を対象とするユニバーサルデザインを追求したバリエーションの拡充に注力してきました。

2008年には、日本家屋の引戸文化に可能性を見出し、高齢者集合住宅用玄関ドア「ヴァリフェイス」を発売。「Various (多様な・多彩な)」と「Face (顔)」の造語である「ヴァリフェイス」は、住まいの顔としてのデザイン性と空間を演出する快適性を融合させました。そして引戸の概念にはなかった、震災に「対応」する対震性能を業界で初めて付加した「ヴァリフェイス Ai」を、さらに一般集合住宅用として、屋外にも設置できる開き戸と同等の性能を有した「ヴァリフェイス Ae」を発売しました。

「ヴァリフェイス Ae」は、間口が広い自転車やベビーカーの出し入れがスムーズになり、玄関スペースに自由度が生まれると共に、これからの超高齢化社会を見据えた新たなソリューションとしても幅広い層に支持され、今後の可能性が大いに期待できます。

これからの時代は、ますます加速するIoT化から“考える建材”へのニーズが高まることは間違いありません。自動化はもちろん、個人認証や例えば気象情報に応じた作動など、引戸での実現はそう遠い未来の話ではないでしょう。

玄関から発信するライフスタイルは、未来を見据えた新しい“住まい方”への提案でもあります。今後も「より便利に、より使いやすく」を追求し、さらに進化した商品をお届けしていきます。



社会貢献を見据えた製品づくり

玄関引戸と土間 ～新しい生活空間とライフスタイルを提案～



「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現をめざし、BXグループでは「ライフ・イン」をテーマに、社会課題の解決に取り組み、企業価値の創出に努めています。その取り組みの1つに2017年9月に竣工した明和地所様の新築分譲マンション「クリオ小杉陣屋町」で採用いただいた、集合住宅向け玄関引戸「ヴァリフェイス Ae」の開発があります。1階住戸に土間「(DOMA)」を配した画期的なプランで、弊社の玄関引戸がその実現の一助となりました。今回のダイアログでは、明和地所様、横浜ビル建材様のご協力をいただき、社会貢献を見据えた住まいづくりや社会的責任について意見を交換しました。

ダイアログ開催概要

開催日：2018年6月5日(火)

参加者：9名(社外6名)

| | | |
|----------|------------|-------------|
| 明和地所株式会社 | 横浜ビル建材株式会社 | 文化シヤッター株式会社 |
| 太田 明 様 | 前川 智彦 様 | 上田 徹 |
| 堀江 裕樹 様 | 菅 逸雄 様 | 久保 貴博 |
| 吉野 奈美子 様 | 大槻 孝之 様 | 齊藤 貴敏 |

※ 掲載している所属・役職はダイアログ開催時のものです。



明和地所株式会社
開発事業本部 副本部長
太田 明 様(中央)
開発事業本部
マンション事業建設三部 部長
堀江 裕樹 様(右)
開発事業本部
マンション事業建設一部
建設課 係長
吉野 奈美子 様(左)

社会背景を捉えたマンションづくり

太田 私ども明和地所は、新築マンションの分譲を中心に1986年から事業を展開しています。「想いをかなえ、時をかなでる。」というブランディング戦略のもと、お客様のニーズを確実に捉え、長い間満足して住んでいただけるようなマンションを提供し続ける企業をめざしています。社会貢献を中心に据えたマンションづくりという点においては、御社のビジョンである「ライフ・イン」とも共鳴する部分が多いと思っています。クリオ小杉陣屋町はまさにその指針を具現化し、成功させたケースです。

吉野 私はその土地に対して建物、デザインの最適化を考え、設計、施工、内覧会、お引渡しまで一連のプロジェクトの建設担当を担いました。

前川 私ども横浜ビル建材は、今年創業34年を迎えます。ビル用建材全搬の販売代理店を行っています。近年では自社での製造も行っていますが、お客様のニーズにいつでもタイムリーにお応えできるような体制を整えています。

菅 今回のケースで言いますと、クリオ小杉陣屋町の玄関戸を受注し、その設計から現場施工、アフターメンテナンスまで弊社が請け負いました。

大槻 明和地所様から今回の案件情報をいただき、事業計画の段階から参加し、商品のご提案をさせていただきました。

新しい暮らし方提案、土間のあるマンション

吉野 今回はまず小杉陣屋町の地歴を迎るところからスタートしました。陣屋というのは江戸時代に藩庁が置かれた大名屋敷のことで、ここは江戸と駿府をつなぐ中原街道にある、大変賑わった土地柄です。今でも町に当時の面影が残っていますので、それをデザインに反映できないかと。江戸時代の粋な生活、粋なデザインを現代に蘇らせる、それがテーマでした。もちろんデザインだけではなく、生活様式そのものにも着目し、そこから「土間のある生活空間」という発想につながりました。

堀江 等々力緑地や多摩川が近いので、サイクリングやバーベキューなどを楽しむ方もいらっしゃる土地柄。土間があれば自転車やいろいろな生活道具を置くスペースにもなります。その点も土間を採用した理由の一つです。高級な自転車は駐輪場には置きたくないでしょうし、メンテナンスのスペースなども必要になりますよね。

吉野 土間はもともと屋外と屋内の中間領域で、炊事をしたり農耕機を置いたりする場所であり、コミュニケーションの場でもあったわけです。こういう空間の使い勝手を活かすには、やはり開き戸ではなく、引戸しかない。自転車などの出し入れは引戸が圧倒的に便利です。スペースを有効に使えます。モデルルームで内覧されたお客様も、30代から40代の小さいお子様がいらっしゃるご家庭が大半でしたが、ベビーカーの出し入れなど、大型の収納を必要とされる方たちが多かったですね。

太田 お客様からは、土間プランに非常に高い評価をいただきました。モデルルームでも1階の土間プランを積極的にアピールしましたが、それが功を奏したのか、実際に1階から先にご売却をいただきました。通常、高層階の方が人気が高い中、これは画期的なことです。

前川 私にとってマンションの玄関で土間スペースというコンセプトは、全く新鮮な体験でした。玄関と言えば靴を脱いですぐ上がる、という感覚だったのが、例えばペットの飼い方などにも影響を与えるような、使い方のイメージがどんどん広がる新しい生活空間なんだという認識を土間は与えてくれました。



マンション玄関引戸がクリアすべきだった課題

堀江 2003年に竣工した物件で、玄関に引戸を採用したマンションがありました。当時、引戸と言えばやはり高齢者ですか車椅子での利用というのが主な目的で、そのマンションのコンセプトもそうでした。しかしクリオ小杉陣屋町は30代から40代のファミリーがターゲットですから、全くコンセプトが違います。その意味では今回の土間のある玄関というのは、新しい試みだったと言えます。



前川 今回明和地所様からお話しがあった時、文化シャッターさんにご相談して、発売を予定している新商品がある、とご紹介いただいたのが「ヴァリフェイス Ae」でした。その時点ではまだスケジュール的に間に合うかどうか、試験などの課題も残っていたのですが、吉野様にその話をさせていただき、モデルルームのオープンに間に合わせられれば、ということになりました。

太田 15年前とは全く違ったニーズに応えるための引戸を新たに開発していただき、モデルルームオープンまでに間に合わせていただいた、という流れですね。

上田 私どもは古くからスチールドアと呼ばれる片開きの開き戸を製造・販売しており、1980年代の初頭からは、引戸にも力を入れてきました。とは言っても当時は屋内での使用が中心で、病院ですとか老人ホーム向けが主でした。ドアの重量をいかに軽くするか、操作性を上げるかに注力しまして、1993年頃には通常の2分の1から3分の1の力でも開けられる引戸を開発しました。一方で、一般のマンションではほぼ100%の玄関に開き戸が採用されており、私たちはそこに可能性を見出しBL玄関

※という引戸を開発したのですが、デザインや重量など、課題

は山積みでした。しかし開き戸並みのデザインと機能・性能があれば、一般住宅にも必ずニーズがあると考え、屋内用ですが、「ヴァリフェイス Ai」という対震性能を付加した引戸を開発し、続いて屋外用を本格的に開発し始めた頃に今回のお話をいただいたわけです。

久保 引戸は通常、扉上部を2点で吊る構造であるため、扉が動作する戸袋部分にまでボックスが必要となりますが、これは玄関としてはデザイン的に相応しくないと。そこで開き戸と同様のすっきりとしたデザインにするために、構造そのものを変える必要がありました。これはとても大きな課題で、試行錯誤の結果、対角構造にたどり着き、その問題をクリアすることができました。

前川 施工をする側としては、やはりドアの重さや子どもでも片手で開けられるようなスムーズさを実現できるかどうか、そこも期待していたポイントでした。

齊藤 お話しをいただいた時点では、開発レベルとしては30~40%程度でした。2016年5月のモデルルームオープンまでの3ヶ月の間に集中的に開発に取り組み、各種試験も随時クリアしながら、一気に具現化していったという状況でした。

上田 マンションの玄関はスペースが限られていますので、やはりプランニングから参加させていただかないと満足いくものは作れない。その点で今回はまさにそれが叶えられたケースですので、これはもう何としてもメーカーとして実現しなければならぬと考えていました。

吉野 マンションの玄関ドアにはそれ以外にもクリアしなければならない性能条件があります。それが耐風圧性、気密性、遮音性、断熱性です。

久保 それらをクリアすることも必須条件でしたが、弊社としては東日本大震災を踏まえ、対震性能も備えるべき標準性能であると考えました。そしてそれを「社会貢献としての付加価値」と位置づけました。

※「優良住宅部品 (BL部品)」は (財) ベターリビングにより、品質、性能、アフターサービス等に優れていると判断された住宅部品です。BL玄関は、防犯性の向上や高齢者等への配慮といった「社会的要請への対応を先導するような特長も有する住宅部品」として「BL-bs部品」(BL-bs: Better Living for better society) の認定を受けています。



画像提供：明和地所

玄関引戸の可能性と期待される進化

太田 クリオ小杉陣屋町は先ほども言いましたように、比較的若いファミリー層を意識したアクティブなコンセプトで作りましたが、それをさらに発展させると、子どもが独立した後のシニア世代のニーズにも充分にお応えできていると思っています。夫婦二人になった時の生活の楽しみ方、リタイア後の豊かな生活に対するニーズを考えると、土間のある空間、玄関引戸のマンションは、今後さらに伸びてくると確信しています。まさに社会貢献を見据えた製品づくりと言えるのではないのでしょうか。

堀江 例えば坂の多い住宅地では、高齢者への負担が大きく、ある意味ゴーストタウン化しているというような事象もあります。都心回帰という意味ではありませんが、地方でも駅に近いマンションの需要が高まっています。私たちの土地取得もそのことを考慮していかなければならないと思います。

太田 一戸建てのバリアフリー工事が非常に高額で、庭の手入れなども面倒なことから、戸建てを手離し、駅に近いマンションに移るといったニーズですね。そのニーズは確かにどんどん高まっています。ふだんから暮らしやすく、将来足腰が弱ったとしても生活が楽で、家族にも安心、そのような玄関引戸は今後もっと注目されるだろうし、大変理にかなっていると思います。

堀江 コストとスペースの問題がありますが、今後は例えば自動車のドアのように鍵をかざすことで玄関ドアが開いたり、開閉速度の調整ができたり、センサーによって自転車や車椅子が楽に通れるような工夫が求められるでしょうね。もうひとつ、重要なポイントは開き戸とのコスト差をどこまで縮めていけるかです。お客様のニーズとの兼ね合いを図りながら、コスト的にもお客様に喜んでいただけるものになりたいですね。

菅 施工管理、アフターケアという観点から一番望むのは、壊れない、傷つきにくい製品ということですね。それが一番ありがたい。表面材の工夫によってもメンテナンスが格段に楽になります。

前川 扉交換が容易にできるといいですね。

堀江 マンションの24時間換気による負担で、扉は引っ張るより横に引いた方が開けやすい。それも引戸の一つのメリットです。

太田 10年後には本当にそうなっているかもしれませんよ。

上田 日本には昔から引戸文化というものがありました。お子様から高齢者の方までをサポートする使い勝手のいい製品を作り続けることで、引戸文化があらためて見直されれば嬉しいですね。今後の製品の改良も含め、少しでも早く次期商品、良い製品をご提案させていただけるよう、頑張ります。

横浜ビル建材株式会社

専務取締役執行役員
東京支店 支店長
前川 智彦 様 (左)
執行役員
改装部兼施工管理部 部長
菅 逸雄 様 (中央)
東京支店 営業二部 担当課長
大槻 孝之 様 (右)



文化シャッター株式会社

ドア・パーティション事業本部
技術部 部長
上田 徹 様 (右)
ドア・パーティション事業本部
技術部 主任
久保 貴博 様 (中央)
ドア・パーティション事業本部
マンションドア部 係長
齊藤 貴敏 様 (左)

